

調査の概要

1. 調査の目的

大田区政の各分野における区民の意向、要望を把握し、今後の施策に反映するための基礎資料とする。

2. 調査の内容

<大田区基本構想> <大田区長期基本計画> に基づき3つのテーマに分け、意見を聞いた。また、経年比較を重視し、例年通り「定住性」と「新しい区政の進め方」を加え、下記の内容とした。

- (1) 定住性
- (2) どこもさわやか潤い都市づくり
- (3) いつもいきいき安心生活づくり
- (4) みんなはつらつ輝き地域づくり
- (5) 新しい区政の進め方

3. 調査の設計

- (1) 調査地域 大田区全域
- (2) 調査対象 大田区に居住する満20歳以上の男女個人
- (3) 調査対象数 2,000
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- (5) 調査方法 調査員による個別面接聴取法
- (6) 調査期間 平成18年9月1日～9月14日
- (7) 調査機関 株式会社 エスピー研 調査事業部

4. 回収結果

- (1) 回収数 1,432 (71.6%)
- (2) 回収不能数 568 (28.4%)

(内訳)	転居	55 (2.8%)	住所不明	18 (0.9%)
	長期不在	64 (3.2%)	拒否	231 (11.6%)
	一時不在	199 (10.0%)	その他	1 (0.1%)

(注) 長期不在とは、出張、帰省などで調査期間中不在のもの。

5. この報告書の見方

- (1) 図表中のnは該当質問での回答者総数のことである。質問に対する回答は1つの場合や、3つまで、あるいは、いくつでもよい場合（複数回答）などがあるが、複数回答の場合、合計比率は100%を超える場合がある。
- (2) 百分比はnを100%として算出し、単純集計についての本文及び図表中では原則として小数第2位を四捨五入して小数第1位まで示し、クロス分析については小数第1位を四捨五入して整数で示した。このため、百分比の合計が100%に満たない場合や上回る場合がある。
- (3) 複数回答とは、回答が2つ以上ありうるという意味である。従って、比率の合計は100%を超える場合がある。
- (4) 図表によっては「無回答」の表示を省略する場合がある。
- (5) 数表やグラフの回答選択肢表記は、コンピュータソフトの都合上省略しているところがある。
- (6) クロス集計のグラフは、比率の小さな回答についてはコンピュータソフトの都合上省略しているところがある。

6. 標本誤差について

この調査の標本誤差（サンプル誤差）はおおよそ下記の表のとおりである。標本誤差は次の式によって得られる。標本誤差の幅は、比率算出の基数（n）、及び回答の比率（P）によって異なる。

$$b = 2 \sqrt{2 \times \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差（二段抽出の場合）
N = 母集団数
n = 比率算出の基数（サンプル数）
P = 回答の比率

(注) 後にかかげる表は $\frac{N-n}{N-1}$ 1 として算出した。本調査は層化を行っているので誤差はこの表よりやや小さくなる。

たとえば、回答者総数（1,432人）を100%とする比率について、ある質問の回答率が50%

であった場合の標本誤差を計算すると、 $b = 2 \sqrt{2 \times \frac{0.5 \times (1-0.5)}{1,432}} = \pm 3.7\%$ となる。

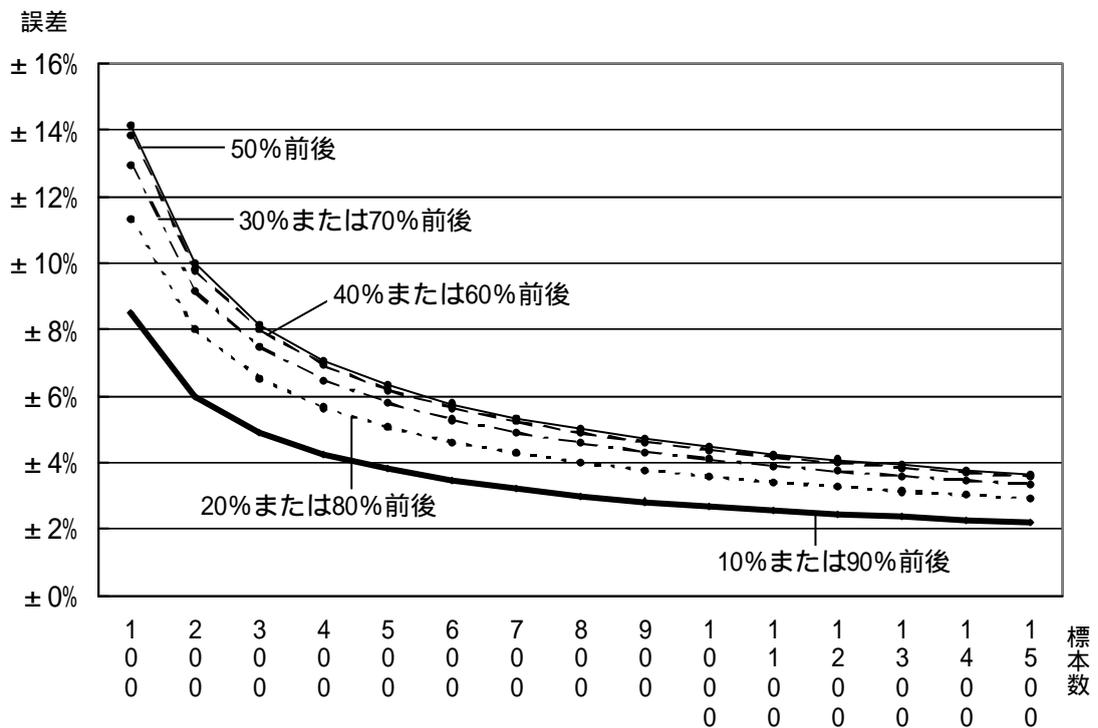
つまり、回答者総数（1,432人）を100%とする比率について、ある質問の回答率が50%の時、大田区民（満20歳以上の男女）の真の値は46.3%～53.7%の間にあると考えられる。ただし信頼度は95%であるので、そのように判断して95%は間違いないという意味である。

nとpを上記の式に代入すれば、必要な標本誤差はすべて計算できる。

次に、標本誤差早見表をかかげる。

(本調査の特性では……………)

回答の比率(P)		10%または90%前後	20%または80%前後	30%または70%前後	40%または60%前後	50%前後
基数(n)						
回答者総数	(1,432人)のとき	±2.2%	±3.0%	±3.4%	±3.7%	±3.7%
女性	(748人)のとき	±3.1%	±4.1%	±4.7%	±5.1%	±5.2%
大田北地域行政センター	(487人)のとき	±3.8%	±5.1%	±5.9%	±6.3%	±6.4%
無職(主婦)	(259人)のとき	±5.3%	±7.0%	±8.1%	±8.6%	±8.8%
男性30代	(110人)のとき	±8.1%	±10.8%	±12.4%	±13.2%	±13.5%



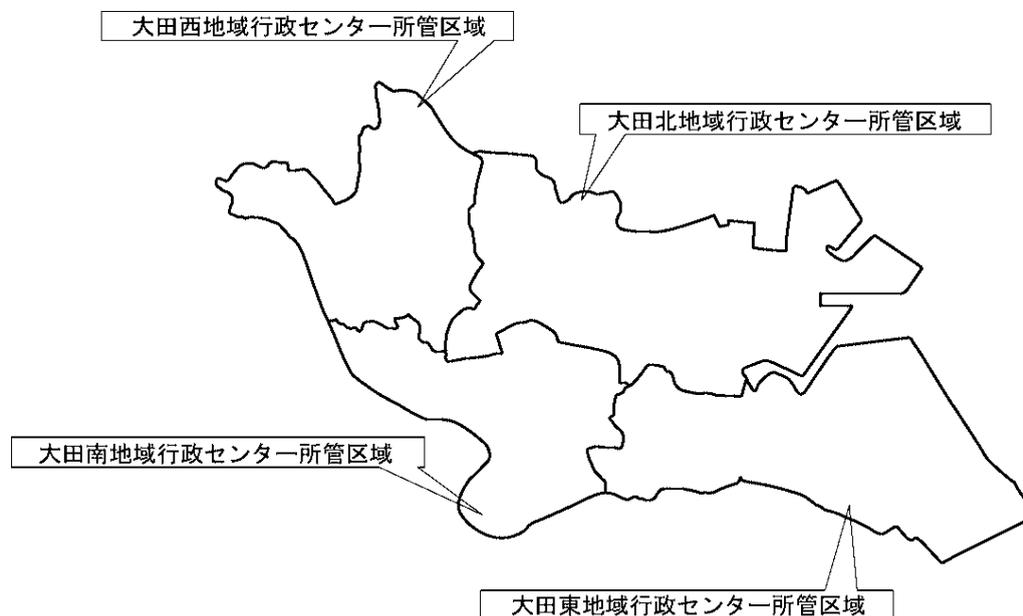
(両図表とも信頼度95%)

7. 調査対象者の抽出

- (1) 母集団 大田区内に在住する満20歳以上の男女個人
- (2) 抽出台帳 大田区住民基本台帳
- (3) 標本数 2,000
- (4) 調査地点数 200地点
- (5) 抽出法 層化二段無作為抽出法
- (6) 地域区分 区内を、4か所ある地域行政センターがそれぞれ所管する区域を単位として次の4地区に分類し、それぞれを層とした。

地域行政センター	所管区域
大田北地域行政センター	大森東特別出張所管内、大森西特別出張所管内、入新井特別出張所管内、馬込特別出張所管内、池上特別出張所管内、新井宿特別出張所管内
大田西地域行政センター	嶺町特別出張所管内、田園調布特別出張所管内、鷺の木特別出張所管内、久が原特別出張所管内、雪谷特別出張所管内、千束特別出張所管内
大田南地域行政センター	六郷特別出張所管内、矢口特別出張所管内、蒲田西特別出張所管内、蒲田東特別出張所管内
大田東地域行政センター	糞谷特別出張所管内、羽田特別出張所管内

図1 地域行政センター所管区域図



- (7) 地点数の配分 1地点が10標本になるように各地域（層）における20歳以上の人口（平成18年8月1日現在）に応じて地点を比例配分した。（合計200地点）
- (8) 地点抽出 各地域ごとに地点数に応じた対象者人口インターバルを定め、各地点のスタート番号を無作為系統抽出した。
- (9) 対象者抽出 抽出された各地点のスタート点より、1地点10標本ずつのサンプルを無作為系統抽出した。

以上の結果、地域別の地点数、標本数及び完了数は次のとおりである。

地域行政センター	20歳以上人口(構成比)	地点数	標本数	回収数(率)
大田北地域行政センター	187,656 (33.4%)	67	670	487 (72.7%)
大田西地域行政センター	143,784 (25.6%)	51	510	364 (71.4%)
大田南地域行政センター	170,355 (30.3%)	60	600	431 (71.8%)
大田東地域行政センター	60,597 (10.8%)	22	220	150 (68.2%)
合計	562,392 (100.0%)	200	2,000	1,432 (71.6%)